

令和元年度

保育所の自己評価

社会福祉法人さつき会

不動さつき保育園

【評価対象期間】

平成31年4月1日～令和2年2月29日

【評価責任者】

東京都目黒区下目黒5-18-4 不動児童館2階

園長 中村 希美

保育所の自己評価

令和元年度

「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。当園では、このことに基づき検討し、保育園（組織）としての自己評価について、評価の項目、視点方法および評価結果の示し方等について標準的な様式として作成しました。

当園は、「保育士の保育内容等の自己評価」を踏まえ、全保育士で園を評価及びこれに基づく改善を行うという一連の取り組みにより保育の質の向上を図ります。

保育所における自己評価の結果

- A: たいへんよい
- B: よい
- C: 一部検討を要する
- D: 改善を要する

◎ 保育の計画の編成と実施にかんする評価

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育方針	☆家庭のように安心して、ゆったりとくつろげる環境の下、子どもの「ありのままの姿」を受け止め丁寧な言葉かけや援助を行います。これらにより、子どもの様々な要求を満たし生命の保持及び情緒の安定を図ります。一人ひとりの育ちの道筋に沿って保育が行われるよう発達過程や興味・関心を慎重に見極め、子どもが主体的に行動していける「待つことのできる保育」「刺激を与えられる事の出来る環境」を重視します。	/				(1)について、保育士間で確認を行う。 (2)について、保育理念・保育方針・保育目標を、保護者にも見える場所へ掲示する。
	(1)保育方針を年度初めに職員で確認している			○		
	(2)職員や保護者の見やすい場所に掲示している			○		
	(3)保護者に配布物を通して、保育理念や保育方針を周知している	○				
保育目標	☆にこにこ…よく食べ、よく遊び、よく眠り、よく笑う子ども きらきら…嬉しい、楽しい、大好きを表現できる子ども わくわく…面白そう、やってみたいを発見できる子ども	/				(2)について、全職員が参加出来るよう効率化を図り、共通理解を図るようにする。 全体的な計画は、保育所保育指針、保育の基本方針に基づき作成しており、子どもの育ちを受け止め、実践できるようにしている。子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して保育を行うなど、保育所の社会的責任について全職員で確認し、次年度の保育目標等の検討をしている。
	(1)保育目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	○				
	(2)保育目標は、前年度の反省を活かし、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか			○		
全体的な計画	(1)全体的な計画の作成には職員が参加している	○				
	(2)地域の実態や保育者の意向などを考慮して全体的な計画を作成している		○			
指導計画	(1)各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画になっているか	○				クラス会議で一人ひとりの特性に応じた援助ができるよう配慮している。その後も職員間で情報を共有して保育に反映している。 (2)について、発達に応じて環境を変更していく大切さを全職員で考え実行していけるようにする。
	(2)環境構成や素材・用具を適切にいかした指導計画になっているか		○			
	(3)保育所の生活における子どもの発達過程を見通し、生活の連続性、季節の変化などを考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらい及び内容を設定している		○			

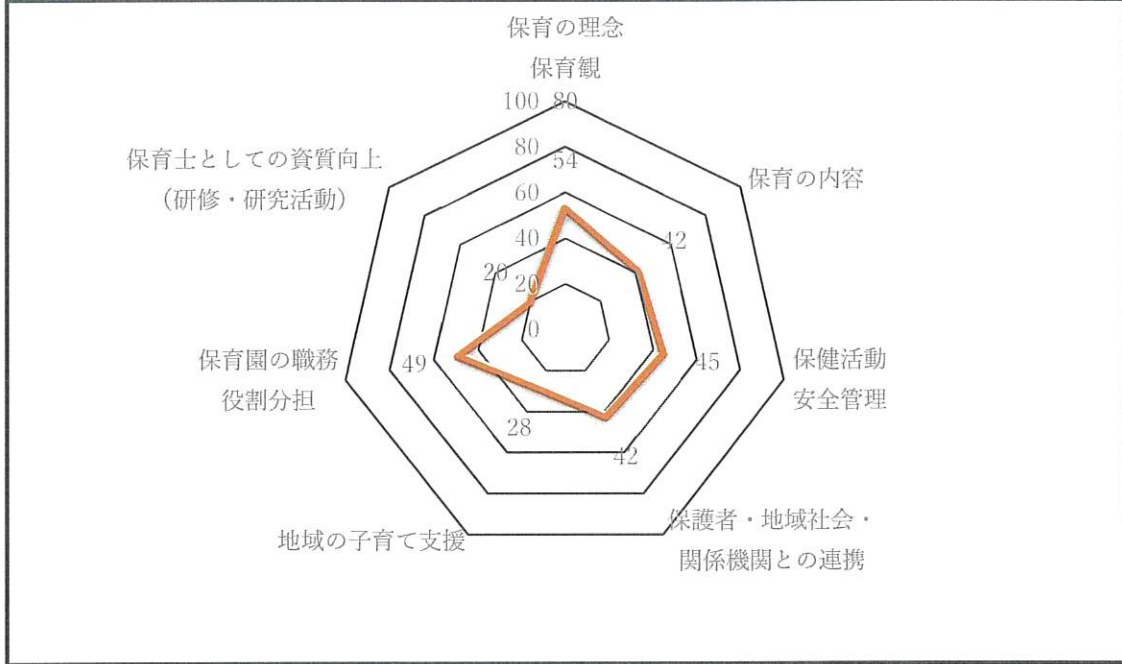
項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育内容	(1)子ども一人ひとりを理解し、受容しようと努めている	○				(2.3.4)について、様々なアプローチができるよう、保育士一人ひとりの保育力を高めていく。また、多様な保育方法を全職員で情報交換したり、研修等で習得したりしながら保育の幅を広げていく。
	(2)基本的生活習慣が身につけられるような活動内容及び環境が整備されている		○			
	(3)様々な表現活動が体験できるように配慮している		○			
	(4)身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている		○			
	(5)遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している	○				
保育・行事	(1)一日の流れ(デイリープログラム)は現行でよいか		○			(1)について、午前中の活動でしっかり身体を動かすことが出来るよう登園時間から見直しを行う。そして、昼食、午睡と自然のリズムで生活できるようにする。朝のおやつは、昼食に影響している為、廃止し、お茶のみとする。
	(2)行事の種類や回数は適切か	○				
	(3)行事のねらいを計画や実施に十分いかしているか		○			
	(4)PDCA サイクル(計画・実施・評価・改善)の体制がとられているか		○			
	(5)保護者の願いや意見を取り入れているか		○			
健康管理	(1)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成の為、「園だより」「保健だより」などで情報を保護者に提供しているか			○		(1)について、情報伝達が不十分であるため、保健だよりの発行を定期的にしていく。 (2)については、必要に応じて連携を図っているが、より細かな連携が図れるよう保護者との対話を大切にしていく。
	(2)乳児の安全確保のために家庭・地域社会・関係機関と連携を図っているか		○			
	(3)感染症などを予防するマニュアルがあり、職員に周知し実行している	○				
食事	(1)食育を通して子ども達が楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	○				2歳児クラスは、畑の活動やクッキング活動等の活動が充実し、苦手の野菜等も克服する様子が見られた。 0～1歳児も発達に応じた援助を通して食への興味を広げられた。 (3)については、本年度に関して該当者なし。
	(2)アレルギー疾患などを持つ子どもに対し主治医からの支持を得て適切な対応をおこなっている	○				
	(3)アレルギー疾患などを持つ子どもへの食事の提供は、間違えないよう個別のトレーなどで取り分け、調理師・保育士間で声出し確認をしている					
環境	(1)園内の掃除がなされ、清潔に保たれ子どもが心地よく過ごせるように配慮している	○				(3)については、季節ごとの集会で触れる様にしているが、より季節感を大事にできるよう保育内容から検討が必要である。
	(2)園内外の衛生面・安全面に配慮している	○				
	(3)園内に子ども達が季節感を味わえるような工夫をしている			○		

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
人権尊重	(1) 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるように配慮している	○				(2)については、保護者のどちらかが日本人ということで困ることはないが、両親ともに日本語でのコミュニケーションが取れない場合の対処法を考えておく必要がある。 (3)については、色や物等で区別することのないよう注意している。
	(2) 日本語によるコミュニケーションが困難な保護者に対して、園の意向や連絡事項が正しく伝わるように配慮している	○				
	(3) 性差への先入観による固定的な概念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	○				
子育て支援	(1) 送迎の際の対話や連絡事項への記載などの日常的な情報交換に加えて、別の機会を設け個人面談をおこなっている	○				保護者との対話の必要性を職員会議で周知徹底していることで、保育士から様々な視点で話することが増えた。個人面談は希望制で行っているが、多くの保護者が希望してくれ、より深い話ができたと。
	(2) 家庭の状況や保護者との情報交換が必要に応じて、関係職員に周知されている	○				
	(3) 保育士は日常から保護者や子どもの様子に注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	○				
	(4) あらかじめ年間行事の目標を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている	○				
地域との連携	(1) 地域の関係機関などと連携を深めるようにしている（育児相談などに際して、専門機関と相談や連携が出来ている）			○		(1)について、関係機関の情報が保護者にも見える場所に掲示する。 (2.4)については、児童館や近隣の保育園との交流を持つことが出来た。 (3)については、本年度より受け入れを開始し、沢山の参加があった。
	(2) 地域のイベントやまつりに参加し、地域の人々と交流できる機会を設けている		○			
	(3) ボランティア・職場体験等の人々を積極的に受け入れている	○				
	(4) 乳児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流している	○				
開かれた保育所づくり	(1) 地域の子育て支援として、保育室等を開放しているか	○				本年度より、子育て支援の一環として「おひさまタイム」を開設。月1～2回の活動に多くの参加があった。参加した方同士の交流の場にもなっている。 (3)については、保育をしながらの時間なので、短くなってしまふ為、開催方法について検討していく。
	(2) 地域の子ども同士、あるいは親子と一緒に遊ぶことが出来るような場の設定を行っている	○				
	(3) 職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか		○			
	(4) ホームページ等で施設の情報を発信しているか		○			
危機管理	(1) 避難訓練・交通安全指導を行い、計画に基づいて適切に実施している		○			(1)について、年間計画に基づき実施しているが、全職員がよりの確に動き、判断する力をつけるため研修をしていく。また、保育士間の声の掛け合いを重視し安全・迅速に対応出来る力を高めていく。
	(2) 緊急時、慌てずに対応できるよう医療機関の連絡先を表示している	○				
	(3) 乳児の安全を図るため、家庭・地域社会・関係機関と連携を図っている	○				

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
守秘義務	(1) 子どもの個別記録は、個人情報保護法に基づき管理している	○				子どもや保護者・家族の個人情報の保護に努めるよう、周知徹底している。児童票やその他の文書についても、情報が見えないように十分に配慮している。
	(2) 保育業務で知りえた子どもの家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている	○				
園内外の研修	(1) 各研修会・講習会への参加体制の充実を図っている	○				(2)については、職員会議や研修報告書で周知しているが、実際の保育に反映されることが少ない為、改善していく。
	(2) 研修の成果を日常の保育に活かし、乳児の育成に反映させている			○		
組織運営	(1) 能動的・合理的な運営組織になっている			○		経験の浅い保育士が多く、組織づくりをしている最中である。保育士一人ひとりのスキルアップを図り、互いに高め合うことのできる体制を確立していく。(4)については、年間会議計画を立て、園内研修の充実を図っていく。
	(2) 職員の配置は適材・適所である			○		
	(3) 係りや仕事の分担・役割は適切である		○			
	(4) 各種会議を適切かつ効率的に進めている			○		
	(5) 職員相互がそれぞれに全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく保育園の運営にかかわっている			○		
年齢別・クラス運営	(1) 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定している	○				保育目標に基づきクラス運営を進めている。また、個人差が大きい年齢なので、個人別計画も大事に捉えている。(3)については、より多くの異年齢交流を図り、子ども同士で学び合う機会を大事にしていく。
	(2) 年齢別・クラス目標は、乳児の実態に即して設定している	○				
	(3) 同年齢及び異年齢間の効果的な活動の充実を図っている		○			
	(4) 評価、資料(諸記録)を集積している	○				
保健・安全指導	(1) 年齢別・クラス運営に活かされるような具体的な保健対策を講じている			○		(1)について、適切に実施しているが、より深く指導していけるよう実施方法を検討する。(2)計画に基づいた訓練はできているので、予告なしの避難訓練も取り入れていく。
	(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している	○				
	(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発をおこなっている	○				
施設・設備	(1) 施設内外・設備の安全点検を計画的におこなっている			○		(1)について、保育室内における細かい点検が出来ていない為、月1回の安全点検日を設け、職員が項目に基づき適切に点検が行えるようにする。
	(2) 遊具・用具等を、活用しやすいように整備・保管している	○				
	(3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っている	○				
	(4) 掲示板・掲示場所等を適切かつ効果的に活用している			○		
外部評価	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映している				○	開園以来、第三者評価を実施していない為、5年に1回は実施できるよう計画をしていく。
	(2) 地域や保護者の意見を施設運営に反映している				○	

保育士自己評価 平均の分析グラフ

実施日 令和元年 10月



このグラフから、課題や特色を見つけ自己評価結果の活用にする

		平均点
1	保育の理念 保育観	54
2	保育の内容	42
3	保健活動・安全管理	45
4	保護者・地域社会・ 関係機関との連携	42
5	地域の子育て支援	28
6	保育園の職務・役割分担	49
7	保育士としての資質向上 (研修・研究活動)	20

保育士が行った「保育内容の自己評価」の平均点は全体的に低く、中でも「地域の子育て支援」、「保育士としての資質向上」は早急な課題となっている。保育士としての仕事にやりがいを感じ、自信を持ちながら保育にあたるよう、職員間での話し合いや助け合いの精神を養っていく。良いチームワークの中で保育をしていくことで、資質向上を図っていく。また、保育内容については、PDCAの流れに沿って自分の保育を振り返えることを習慣にしながら、多くの職員と意見交換ができる場を多く設けることで質の高い保育を目指していく。

保育士は、資質向上を図るために自己評価を行い、課題等を踏まえ職務内容に応じた専門性を高める為、必要な知識及び技術の習得に努めなければならない。と保育所保育指針にうたわれています。令和元年度に行った自己評価を分析し、職員の専門性を高め、資質向上に努めていきたいと考えております。